

令和3年度神奈川県美しい環境づくり推進協議会の開催結果について

1 会議名

令和3年度神奈川県美しい環境づくり推進協議会

2 開催方法

書面開催（議題に対する意見照会）

3 開催期間

令和4年3月10日（木）から令和4年3月24日（木）まで

4 出席者

別紙1のとおり

5 議題

- (1) 美化活動の推進及び不法投棄対策の取組みについて（報告事項）
- (2) 神奈川県美しい環境づくり推進協議会の今後の在り方の検討状況について

6 開催結果

別紙2のとおり

出席者名簿

(1) 委員

(敬称略)

	氏名	御所属等
1	中田 良平	スチール缶リサイクル協会 専務理事
2	若野 隆生	湘南海岸をきれいにする会 会長
3	小堤 健司	一般社団法人神奈川県バス協会 常務理事
4	安藤 里香	一般社団法人神奈川県経営者協会 主査
5	黒田 邦方	小田急電鉄株式会社 CSR・広報部長
6	松浦 治美	公益財団法人かながわ海岸美化財団 代表理事
7	佐藤 奇平	株式会社神奈川新聞社 統合編集局局次長
8	星野 恵三	神奈川県都市清掃行政協議会 事務局長 (厚木市環境農政部環境事業課長)
9	安藤 好幸	神奈川県町村清掃行政協議会 会長 (二宮町都市部生活環境課長)
10	西 寿子	公募委員
11	勝田 暎子	公募委員
12	榊 晴太郎	神奈川県議会議員
13	野田 治美	神奈川県議会議員
14	加藤 洋	神奈川県環境農政局環境部長【会長】

※ 令和4年3月24日時点

(2) 事務局

	氏名	職名
1	田中 晃	神奈川県環境農政局環境部資源循環推進課長
2	中田 康博	神奈川県環境農政局環境部資源循環推進課 適正処理グループ グループリーダー
3	逸見 佳樹	神奈川県環境農政局環境部資源循環推進課 適正処理グループ 主事

※ 令和4年3月24日時点

令和3年度神奈川県美しい環境づくり推進協議会(書面開催) 開催結果

1 議題1 美化活動の推進及び不法投棄対策の取組みについて

資料1及び参考資料1から4により、本県の美化活動や不法投棄対策に係る取組みについて報告し、各委員から意見を伺った。
各委員からの意見及びこれに対する事務局からの意見は次のとおりである。

意見者	意見の概要	事務局（環境農政局環境部資源循環推進課）からの意見
若野委員	<p>2年余にわたるコロナ禍で、計画されていた行事等が中止や延期となっている。こうした状況下ではあるが、コロナ禍3年目に入り、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、参加者に理解をいただき、クリーンキャンペーン等の美化活動を進めてまいりたい。また、啓発活動は特に継続した取組みが必要である。</p> <p>最近河川や海岸等の野外でのバーベキュー等がブームにあり、心無い方のごみや器具の放置等がみられることから、クリーンキャンペーンに取り組みたいと考えている。</p>	<p>コロナ禍の大変な状況の中で、クリーンキャンペーン等に取り組みようとしていただいていることに感謝申し上げる。感染拡大状況を考慮しながら、スタッフ及び参加者のマスク着用、使用器具の消毒、対人距離の確保等の新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら実施していただきたい。</p> <p>また、実施に当たっては、当課で新たに開設するLINE公式アカウントで情報発信をさせていただきたい。</p> <p>当課でも、ドローンを活用して、河川や海岸等の利用者に対してごみの持ち帰りを呼びかけており、今後も継続して啓発していききたいと考えている。</p>
松浦委員	<p>不法投棄対策として、「不法投棄監視カメラによる監視」を12箇所を実施しているとのことである。</p> <p>かながわ海岸美化財団が日々パトロールをしている県内の海岸には、甚だしい不法投棄が常態化している場所が複数箇所ある。こうした海岸にも監視カメラを設置して監視することは不法投棄の抑止にもなり、不法投棄対策として効果があると思われるので、検討していただきたい。</p>	<p>地形、撮影箇所に応じて設置が困難な場所もあるとは考えられるが、今後情報交換をさせていただきたい。</p>
佐藤委員	<p>全体として、令和4年度が始まろうとしている令和3年度末に、監視パトロール実績など令和2年度分の取組みを報告する意味が分からない。本来は当該年度の取組みを翌年度に生かすために報告するのではないか。2月までの速報値をベースに3月に開催するか、年度が替わってからの4月か遅くとも5月中に開催し、次年度の取組みに生かすべきではないか。</p> <p>「2(1)ウ その他の監視活動の実績」について、9団体と協定を締結しているとのことだが、業務中の情報提供が何件あったのか、実績を知りたい。</p> <p>「3(1) LINE公式アカウントの開発」について、公式アカウントを作るだけでは若者に届かない。若者に人気のインフルエンサーに発信してもらうなど、仕掛けが必要である。</p> <p>参考資料2について、不法投棄の把握実績で、県所管域分が全体の7%である理由が知りたい。政令市4市との面積比が93:7ではないはず。政令市に比べ、県の取組みが弱いということか。</p>	<p>意見を参考にさせていただき、開催時期の見直しや協議会開催年度における速報値の報告などを検討していききたい。</p> <p>令和3年度については、1件の情報提供を受け対応をしている。</p> <p>令和4年度以降は、開設したアカウントを活用しながら、プラごみゼロに向けた啓発活動に力を入れていきたいと考えており、頂いた意見は参考とさせていただきたい。</p> <p>県所管域と、政令市4市ではそれぞれ異なる方法で集計をしており、集計の対象期間も異なっている。</p> <p>具体的には、政令市は1か月分の不法投棄発見箇所・量の調査結果を累計しており、県所管域は県と市町村の合同パトロール（約1か月で各市町村ごとに1回実施）による把握実績を集計しているため、政令市の統計が多くなっている。また、一部の政令市では、家庭ごみの集積場の周囲に堆積しているごみも不法投棄として計上している可能性もあり、それぞれ独自かつ長年来的集計方法がある。</p> <p>経年変化を見るためには、集計方法を変えることは難しく、現状の集計方法を継続している。</p>
西委員	<p>かながわクリーン運動関連のクリーンキャンペーンについて、項目「海」の事業が実施されませんでした。今年度からは、万一口岸でも、できる限り実施の方向で考えていただきたい。</p> <p>ペットボトル回収の実証実験について、ペットボトル削減に向けての取組み（例：マイボトルの推奨や、市役所等でのウォーターサーバーの設置の紹介）も入れていただきたいと思う。</p>	<p>令和2年度、令和3年度とも、かながわ海岸美化財団による清掃や一部ボランティア等による清掃は、少ない参加人数ながらも感染予防に配慮しながら実施されていた。令和4年度は、湘南海岸をきれいにする会の若野委員の意見にもあるが、コロナ禍の中でも実施に向けて検討していただいているところもある。</p> <p>コロナ禍の状況により海岸への立入の自粛を求めるような状況が生じた場合は困難となるが、かながわ海岸美化財団とも情報を共有しながら考えていきたい。</p> <p>ペットボトル回収の実証実験については、ペットボトルがペットボトルに再生される社会を目指した取組みとして実施しており、引き続きペットボトルの再生利用に向けた3分別の徹底を啓発していききたい。</p> <p>一方で、プラスチックごみの削減に向けたマイボトルの推奨やウォーターサーバーの設置等の取組みについては、市町村やプラごみゼロ宣言賛同企業等が取り組んでおり、そのような取組みの啓発にも力を入れていきたいと考える。</p>
勝田委員	<p>ペットボトルの回収日にラベル、フタがついたまま、ごみ収集所に出されているところをよく見る。3分別をしなければいけないということが、あまり知られていないのではないかと思います。</p> <p>3分別を普及させるため、自販機のそばに本厚木駅にあるような3分別の回収ボックスを設置することを義務付けてはどうか。</p> <p>現在でもメーカーは充分努力していると思うが、製造者責任の観点から、販売したものに対して最後まで責任を持ってほしい。芸能人が出演するようなコマーシャルに「飲んだ後は3分別をお願いします。」と一言入れるのはどうか。</p> <p>クリーンキャンペーンをいくらしても、不法投棄はなくなっていかない。個人のモラルに頼るしかないのか。</p>	<p>意見を参考にさせていただき、3分別の実証実験の結果を検証しながら、普及啓発に取り組んでいきたい。</p> <p>個人のモラルの向上を目的とした啓発活動は重要であると考えている。そのために、来年度は環境教育にも力を入れていきたいと考えている。</p>
榎委員	<p>竹ざらで使用している針金にプラスチックが覆われており、劣化した針金が砂浜に散乱してしまっている。針金の種類を変えることも検討されているが、現状は難しい状況である。</p> <p>針金に付随するプラスチックが散乱しているため、それらを拾うための活動を検討してもよいのではないかと。</p> <p>サイクリングロードの路面に敷かれている素材が樹脂製プラスチックで、劣化した素材が砂浜等に散乱している。それらを拾うための活動を検討してもよいのではないかと。</p> <p>海岸に設置されているごみ箱が撤去されるが、その後の対応や県民への理解が不十分であると考えるため、更なる対応を求める。</p> <p>海岸に漂着するごみの大半は河川から流れてきたものであるため、その事実の更なる周知と、河川でのごみ拾いの協力依頼、クリーンキャンペーンを増やすことの検討を求める。</p> <p>不法投棄対策として、市町村との合同パトロールやスカイパトロールを実施しているが、どのような不法投棄物があるのかの現状をホームページやSNSを通じて周知してほしい。</p> <p>不法投棄を抑制するための看板等の多くが劣化しているため、目立つよう更新を求める。</p> <p>海岸において、以前まで網元が使用していたであろう残物や設置物が多く残っており、景観や防犯、安全に支障をきたしているため、残物や設置物の撤去等の改善を求める。</p> <p>表彰等については、引き続き継続を求める。</p> <p>県内の不法投棄箇所、投棄量が増加傾向にあるため、改善を求める。</p>	<p>まずは海岸管理者、市町村、かながわ海岸美化財団等と情報を共有し、対応について検討していききたい。</p> <p>河川管理者、市町村、河川の清掃団体等と情報を共有し、協力しながら進めていきたい。</p> <p>意見を参考にさせていただき、HPの充実、発信を検討していききたい。</p> <p>各関係機関と情報を共有し、適宜更新をするようお願いすることとしたい。</p> <p>まずは海岸管理者、市町村、かながわ海岸美化財団等と情報を共有し、対応について検討していききたい。</p> <p>引き続き継続していききたい。</p> <p>市町村、県警、協定締結団体等と連携し、監視パトロールや協定による通報等による早期発見や未然防止、既存事案の改善指導を進めていきたい。</p>
野田委員	<p>かながわ海岸美化財団やボランティアの方による海岸美化活動は非常に有効であると認識している。プラごみゼロ宣言を掲げる本県としては、出口だけではなく、入口の取組みに関して一人ひとりの意識啓発をさらに考えていくべきである。</p> <p>便利なペットボトルではあるが、国内全体で年間約25億本販売され、うち約89%がプラスチック製品等に再利用されているが、分別が徹底されていないことなどから、現在、リサイクル可能なペットボトル材料としては、約16%しか利用されていない。</p>	<p>市町村、事業者等と連携した「かながわクリーン運動」推進するとともに、「ごみの持ち帰りを呼びかける鉄道車内での広告」、「「未来の海を守ろう」という子どもたちのメッセージを込めた動画の作成及びネット配信」、「海岸や河川敷における、ドローンを利用した利用者へのごみの持ち帰りの呼びかけ」といった啓発活動を今後も継続していききたい。</p> <p>また、環境教育をさらに推進するため、子どもを通じた家庭への働きかけも念頭に、小学生を対象とした映像教材を作成し、多くの学校で使われるよう協力を求めていく。</p>

2 議題2 神奈川県美しい環境づくり推進協議会の今後の在り方の検討状況について

資料2及び参考資料5から7により、本協議会の今後の在り方の検討状況等について報告し、各委員から意見を伺った。
各委員からの意見及びこれに対する事務局からの意見は次のとおりである。

意見者	意見の概要	事務局からの意見
中田委員	本協議会の長年に渡る取組みにより、空き缶の散乱や不法投棄は当初に比べて大きく改善されたと認識している。 一方で、近年は容器包装を含むプラスチック製品の普及拡大に伴い、プラスチックごみの散乱や海洋への流出などプラスチックによる環境汚染が問題となってきている。 このような問題の変遷や関係する組織体との連携の変化等を踏まえて、本協議会の在り方を適時見直す必要があり、委員についても同様に、その時々状況に応じて、例えばプラスチックに関わる事業者団体等に委嘱する等柔軟な運用が図られるべきと考える。	いただいた意見を参考にしながら、新たに委員の推薦を依頼する団体を検討していきたい。
若野委員	本協議会の位置づけについては、今回の見直しで分かりやすくなるのではないかと思う。	検討している本協議会の在り方を形にしていけるよう、令和4年度は進めていきたい。
佐藤委員	より具体の推進方策を検討するため、活動実施団体を中心に構成する考えには賛同する。 公募委員の枠を拡大し、かながわプラごみゼロ宣言賛同企業等を含めて団体も公募にしてはどうか。	いただいた意見を参考にしながら、新たに委員の推薦を依頼する団体の選定手法を検討していきたい。
西委員	新たに委嘱する団体の中に、自治体からの推薦団体等も入れた方がよいと思う。	いただいた意見を参考にしながら、新たに委員の推薦を依頼する団体の選定手法を検討していきたい。
野田委員	現在の「3R推進会議」から、令和4年度はReduce（リデュース）・Reuse（リユース）・Recycle（リサイクル）に、Refuse（リフューズ）とRepair（リペア）の2つを加えた「5R推進会議」へと設定をし、令和5年度5月に一部委員の入れ替えにおいてはそのあたりを考慮した構成員としていただきたい。	「かながわプラごみゼロ宣言アクションプログラム」の改定にあたり、5Rの視点等を踏まえた内容に見直していくとともに、「3R推進会議」の事務局と、いただいた意見を共有させていただき、「3R推進会議」も含めた改組の検討を進めていきたい。
	関係団体には、プラスチック製品のリサイクル団体や教育関係者（環境教育は重要）、また、公募委員も年代別に3名など幅広い参加からの意見交換も必要かと考える。	いただいた意見を参考にしながら、新たに委員の推薦を依頼する団体、構成を検討していきたい。

3 その他

その他、各委員から自由に意見等を伺った。
各委員からの意見及びこれに対する事務局からの意見は次のとおりである。

意見者	意見の概要	事務局からの意見
西委員	「神奈川県美しい環境づくり推進協議会」のネーミングについて、「美しい環境」とは抽象的すぎるし、発足後45年ほど経過した現在、地球環境も激変しているの、「神奈川県持続可能な環境づくり推進協議会」等に改名してはどうか。	いただいた意見を参考にさせていただき、改組に向けた検討に併せて考えたい。
勝田委員	アメの包み紙一枚のポイ捨てでも、マイクロプラスチックの素となることを知ってもらいたい。 スーパーのトレイ、なんとか減らしたいと思っているが、今のところ妙案がない。	いただいた意見を参考にさせていただき、啓発活動を進めていく。
榊委員	年々、環境美化への意識が高まってきている。ビーチクリーン活動も個人、各種団体を通じて活発化してきている。今後も継続して県、市町村が協力をすることを求める。	引き続き県、市町村、事業者等と連携して「かながわクリーン運動」を推進していくとともに、LINE等を活用して拡大を図っていきたい。
	コロナ禍により、ビーチクリーン活動への制限も多いため、ビーチクリーン活動時のガイドライン等を設けることを求める。	まずは海岸管理者、市町村、かながわ海岸美化財団、ビーチクリーン実施団体等と情報を共有しながら検討していきたい。
野田委員	漂着ごみの大半は漁具を含むプラスチック類が占めており、海洋プラスチックの問題を解決していく上では、法律の整備に基づいた生産・使用削減やリサイクルシステムの改良などが重要である。しかし、2018年に開催された「G7シャルボワ・サミット」では、プラスチックの製造、使用、管理及び廃棄に関して、より踏み込んで取り組むとする「海洋プラスチック憲章」に日本とアメリカだけが署名しておらず、後ろ向きと考える。 一方、本県は、2018年9月に「かながわプラごみゼロ宣言」を発表、海岸のごみは「かながわ海岸美化財団」の清掃事業の他、多くのボランティアの方々の清掃活動に支えられているが、プラスチックによる環境問題は、海洋汚染だけでなく、地球温暖化にも大きくかかわる重要課題として、率先した取組みを期待する。	令和4年度の「かながわプラごみゼロ宣言アクションプログラム」の改定にあたり、5R、脱炭素、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律等のプラごみを取り巻く社会状況の変化を踏まえて、内容を検討していきたい。